

29 確実に避難行動が行われるためにはどうすればよいか？

避難行動を妨げる要因として、正常性バイアスや同調性バイアスという心理状況があります。正常性バイアスは、「自分だけは大丈夫」、「この地域は大丈夫」と、リスクを低く見積もってしまう心理傾向です。同調性バイアスは、「近所のひとが避難しないから自分もしない」とか「避難所へ避難した後で他の人が家に戻るから自分も戻る」などの心理状況です。

避難のきっかけは、周囲の状況変化とともに、声掛けが挙げられています。地域での防災訓練は地域内での声掛けをしやすい環境作りにもつながります。防災訓練は危険状態への移行をスムーズに行う訓練であり、バイアスが生じる前に行動を起こすことができるようにする訓練にもなるため、災害発生時の迅速な避難行動をとる上で重要であると考えます。

避難行動を行う上では、避難をするかしないかを判断する必要があります。上記バイアスが働くことがあります。避難行動のきっかけとして内閣府では、警戒レベルを用いた防災情報を発信しています。令和3年5月に災害対策基本法が改正されました。警戒レベル5の「緊急安全確保」の発令時には、すでに安全に避難ができない状況なので、すべての人は、警戒レベル4までに必ず避難しなくてはならなくなりました。また、言葉も「避難指示」、「緊急安全確保」となり、確実な避難がなされるような表現となりました。以下をご参照下さい。



(内閣府 H.P. 「防災情報のページ」より)

確実な避難行動をとるためには、気象庁や市町村が発表、発令する警戒レベルを判断基準とし、警戒レベル4までには必ず避難しなければならないという意識をもつことが大切です。なお、避難所に行くことが避難ではありません。「避難」とは「難を避けること」と認識し、避難の方法を普段から家族などで話あっておくことも避難を確実に行う上では大切だと思います。

(M. K.)